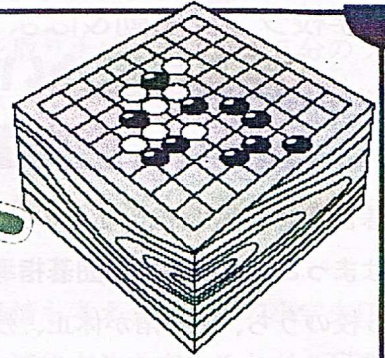


さかえの石音

いしおと



本郷台からメッセージ

「脳のジョギングロードへの誘い」

会長 関口正俊
電話 045-897-1606

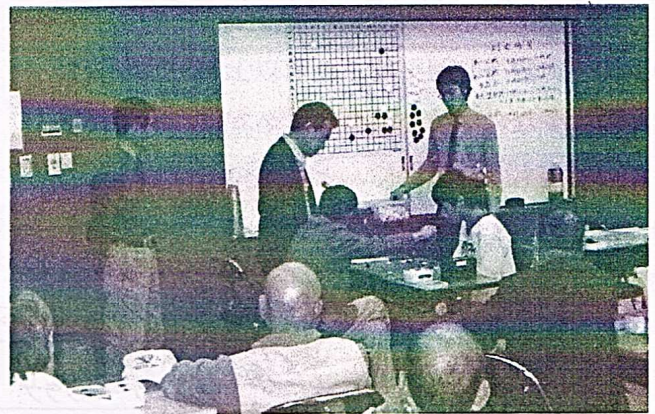
いま人気のペア囲碁に 生徒と先生が初挑戦！

いま、日本で生まれたペア囲碁が人気上昇中である。夫婦対決と話題を呼んだプロ棋士ペア囲碁選手権の決勝戦は2月4日に行われ、小林泉美女流最強位・山下敬吾九段ペアを破った鈴木三段・張栩名人ペアが初優勝を果たした。また昨年の第16回国際アマ・ペア碁選手権には、世界21か国・地域から32組が出場、中国ペアが優勝した。



【優勝した植田・松井ペア】

栄区でも昨秋の芸術祭『囲碁まつり』に、初めてペア碁が登場。普及会教室の生徒・先生も出場し熱戦を展開した。Aブロック優勝は鎌倉誠1級・牧野博初段ペア、2位は岸川津弥子1級・植田米男二段ペア。Bブロックの優勝は植田有咲6級・松井重暁五段ペア、2位は横田和嗣7級・中島史稜初段ペアと、普及会教室関係者が大健闘。「相手だけでなくパートナーの手も読まないで勝てないので大変」という声もあったが、ペアの思いが一致し成功した時の感激も大きかったようだ。



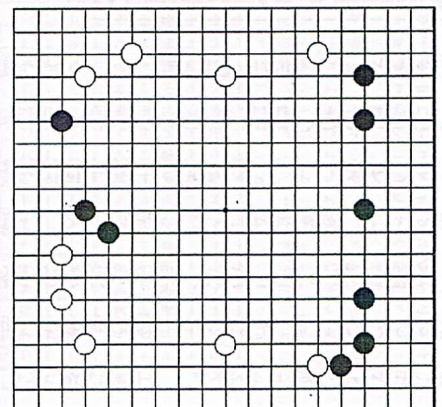
【対局中の肥塚六段・志慶真四段。解説する黄プロ（右後方）】

志慶真君（中1）の公開対局に

黄プロ五段が大盤解説

『囲碁まつり』のもう一つの新しい試み、公開対局も話題を呼んだ。西本郷小学校はまっこスクールで実力を伸ばし、日本棋院で四段を認定された若きホープ、志慶真誠君(西本郷中学1年)が肥塚淳次六段に挑戦。敗れはしたものの、大盤解説した日本棋院プロ、黄奕昀五段に若者らしい戦いぶりが賞讃された。なお、『週刊碁』に掲載された黄五段の出題を紹介しよう。

出題 五段 黄 奕昀
黒番 気になる場所が一方所
あります。形に明るければ、
ひと目でしよう。
(解答は3ページ右下)



【小学校クラブ活動&はまっこスクール囲碁指導員アンケート調査より】
「囲碁は面白い」「もっと強くなりたい」と子供達の声
区内16小学校、150人の小学生に囲碁指導

囲碁普及会は、栄区内の16の公立小学校のクラブ活動及びはまっこスクールで普及活動を展開している。

■はまっこスクールでの囲碁指導

16校のうち、上郷南が休止、残る15校で20名の指導員が活動している。

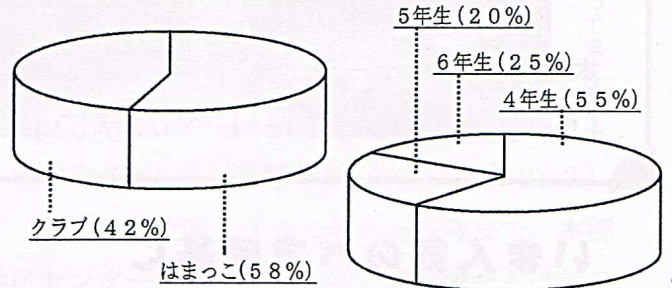
- ①回数…毎週1回で月4回程度が多い。
- ②時間…14時30分から約1時間～3時間。

冬期は子供の安全をはかり短くなる。

- ③参加生徒数…1回平均10名以上という学校が4校、少ない学校では2～3名程度。時々参加する生徒も入れるとぐんと増えて88名。

- ④生徒の棋力…3～4級の上級クラスの生徒もい

はまっこ vs クラブ生徒数比



学年別 クラブ生徒数比

るが、ほとんどの学校では15級程度がトップで20級～入門者が多い。

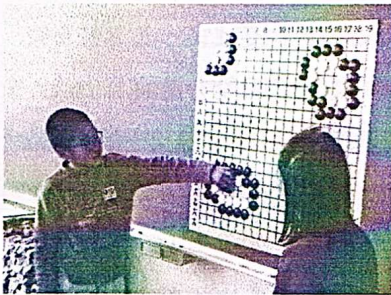
■クラブ活動での囲碁指導

囲碁を体験するクラブは6校あるが、囲碁と将棋・オセロを合わせたゲームクラブが多い。普及会の指導員10名が担当している学校は右表の5校。

囲碁を学ぶ生徒は各校9名～17名だが、圧倒的に男子が多い。学年別では4年生が50%を越えている。

小学校名(クラブ名)	生徒数	性別	4年	5年	6年	指導回数
飯島小学校 ゲームクラブ	17名	男子 女子	8名 3名	5名 0名	1名 0名	年11回
小菅ヶ谷小学校 ゲームクラブ	14名	男子 女子	7名 1名	4名 0名	2名 0名	年13回
桜井小学校 囲碁・将棋オセロクラブ	13名	男子 女子	8名 1名	2名 0名	2名 0名	年6回
豊田小学校 囲碁将棋クラブ	11名	男子 女子	5名 0名	2名 0名	4名 0名	年9回
本郷台小学校 囲碁将棋クラブ	9名	男子 女子	2名 0名	0名 0名	7名 0名	年12回

(普及会以外の方々が担当される学校は除く)



← 左写真は小菅ヶ谷小学校のクラブ活動

「初めはむつかしそうだったけど、囲碁が陣取りゲームだということがわかって、面白くなりました」、「今は小さな碁盤でやっていますが、早く強くなって19路盤で打ってみたいです」—子供達の声がたくさん寄せられている。「真剣に考える子供の姿や、手筋を発見して喜ぶ笑顔を見ていると、教えて良かったと思う」との指導員の声もある。

囲碁歴史の散歩道(1)

囲碁と云う素晴らしいゲーム、いや頭脳スポーツに出逢えた貴方と、囲碁発生から現在の囲碁界迄、足早に散策してみましょう。約4300年前中国が発生の地とされ、当時は17路盤で打っていたらしく、漢の時代に現在の19路盤になったとされ、唐の時代19路盤で打った記録があるそうです。それから1500年後に朝鮮、更に50年、100年と云う歳月を経て、日本に渡来しました。奈良時

代に入り、古事記にも日本初の碁の文字が記され、正倉院の宝物庫には聖武天皇の遺品の一つとして、碁盤等が展示されている。万葉集にも碁の歌二首が収められ、平安、鎌倉時代には、源氏物語、紫式部日記、枕草子等に囲碁の寸評、記事が多く収められています。この時代多くは僧侶、女性の嗜みとして打たれ、室町、戦国、安土桃山時代には武士も加わり普及に拍車が掛かります。次回はいよいよ碁聖、本因坊算砂の登場です。

本小日曜教室インストラクター 松浦 一

キメ細かい指導で初段誕生

本教室の運営については平成16年9月開講以来、試行錯誤を重ね、充実を図ってきました。常時18名以上のインストラクターが対局指導に当っており、高段者による毎回45分間の講義では「布石と定石・序盤」「闘いと手筋・中盤」「死活と寄せ・終盤」の要点を分かり易く解説し、「囲碁の歴史と文化」「日本と世界の囲碁事情」などの特別講義も行われております。また、受講生のその日の対局の中から、講義に関連する「受講生が陥

り易いポイント」を取り上げ、終了前15分のワンプoint・レッスンをを行うなど、木目細かい指導が好評です。更に囲碁を美しく打つ為のルールやマナーについての厳しい指導も本教室の特徴の一つでしょう。

最近では不安な世情も考え、低学年の小学生についてはご家族との連絡方法を定めるなどの配慮も行うことに致しました。

これからも更に工夫を重ね、楽しく、上達できる本郷土曜教室（上達コース）にしたいと考えております。
(中村記)

指導員の講義反省会実施

12月21日、指導員の講義担当が一巡した所で講義についての反省会をした。その際出た内容は、テキストの解答をするだけでなく、①自分の石の安定を図る②相手の石の生存を脅かす③大場に先行するの順に考えるなど、何故そのように考えるのか原則・基本を示すと良いこと、よく出てくる

基本パターンを強調すること、解説盤に石を置く際は全員の受講生が良く見えるように配慮すること、話は受講生の顔を見て話すこと、等であった。また、講義の準備の為、基本をやり直したことが自分の勉強になったこと、問題番号を指定して質問すると答は返ってくるが、番号を隠して質問すると中々答えられないこと等で、我々も強くならなければ…の感を強くした次第です。
(杉浦記)

認定会で3階級特進者二名

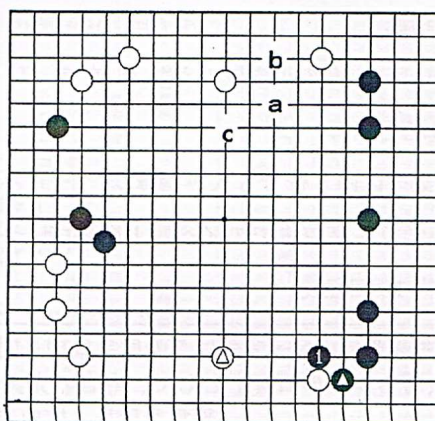


1月29日、本郷中学校で本中日曜教室33名と本小日曜教室8名による合同認定会が実施された。18級以上は19路盤で

3局、19級以下は13路盤で4局対戦したが、それぞれ全勝者は4名と3名であった。

全勝者のうち、佐々木修平さんと加藤朗さんはインストラクター会議で3階級特進と認定された。いずれも本小教室の生徒であった。そのほか2階級昇級者5名、1階級昇級者13名。

手筋や詰碁の「次の一手問題」ではしっかり正解できる人たちでも、実戦になると簡単に負けるケースが見られ、数多くの対局を通して実戦力のアップをはかるなど、指導する上での今後の課題と言えそうだ。現在10~12級の人たちの中からも四月から上達コースに進級できる人が出るように一層の精進を望みたい。
(橋本記)

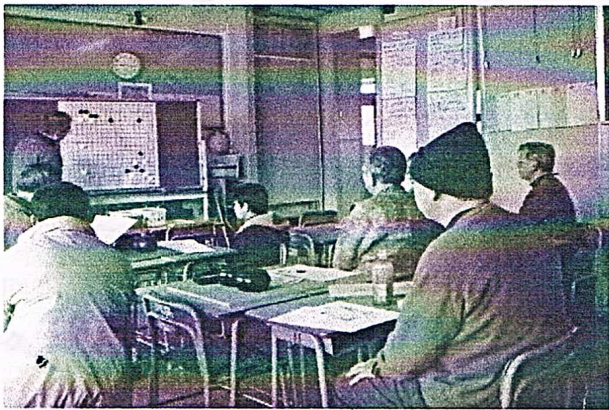


正解 黒1のハネが急所。下辺の白の構えを薄くすると同時に右下三々への侵入も防いで右辺の黒模様を拡大にも役立つ。失敗 黒a、白b、黒cと広げるのも勢いがいいのですが、白1を許しては△との幅が二立三折の好形で、逆に▲が悪手。

●本小・日曜教室（入門・初級コース）

連碁で今年のスタート

今年初めての本郷小授業は全員二組に分かれて、連碁をやりました。下の写真は松浦講師が棋譜をとり解説しているところです。後半は実戦で棋力の向上を計っています。月末は本中教室に出かけ合同認定会や対局をやりレベルアップを心がけています。小1の横谷君は皆さんから可愛がられています。孫の感覚で相手になっています。期末には上達コースに繰り上げられる受講生が1人でも多く出ることを期待しています。（臼井記）



●楽碁会（卒業生による囲碁クラブ）

元気な女性軍、明るいムード



『私たち、頑張ってます！』

登録会員 61名〔級位者 40名、段位者 21名〕で、例会は毎土曜日午後1時から5時まで。本郷地区センターで開いています。級位者たちは顔見知りですから、割と自由に相手を見つけて勝負を楽しんでいます。世話人の幹事6名は全員級位者です。

3月には第1回楽碁会囲碁大会を計画しており、近い将来、普及会出身の有段者続出を夢見て張り切っております。

ご覧の通り女性会員は多士済々、例会はいつも華やかな雰囲気になっています。（鎌倉記）

栄区囲碁普及会の活動

栄区囲碁普及会は『普及活動を通じて子供の情緒育成、老人の健康維持、町づくり等に寄与する』ことを目的に、2001年10月に結成されたボランティア団体です。会員数は2月1日現在63名で、そのうち約40名が栄区内の小・中学校及び普及会主催の教室を主体に、下記のような囲碁の普及活動を続けております。

A. 学校関係における指導

- ①はまっこスクール…区内16の小学校のうち15校で、20名が生徒約120名を指導。
- ②小学校のクラブ活動…区内5校で8人が指導。
- ③学校特別行事…小学校～高校までのイベント関係で囲碁を担当。年間約10回程度。

B. 普及会囲碁教室を運営

- ①本郷土曜教室（上達コース）1級～9級
 - ②本郷水曜教室（上達コース）1級～9級
 - ③本中日曜教室（入門・初級コース）10級以下
 - ④本小日曜教室（入門・初級コース）10級以下
- 以上4教室で約90名を指導。（2月1日現在）

C. 『栄子どもとおとなの囲碁大会』を主催

開会のご挨拶の中で「三世揃って一つのことが出来る素晴らしさ」と吉久保区長に誉めていただいた大会で、昨年日本棋院発行『週刊碁』で級位者による世代交流と大きく報じられた。

まだまだ十分な活動ではないかとも思いますが、会員一同、さらに奮励努力し、栄区の皆様のご期待に添えるよう頑張る所存です。

●編集だより● 栄区囲碁普及協会・会報はこの度会員相互間の連携をさらに強め、普及会の活動を広く知って戴くためにタイトル・紙面を一新、『さかえの石音』として、内容の充実を図ってまいります。お気づきの点がございましたら、編集までご連絡ください。

編集委員長：植田米男 連絡先 ☎&fax 045-892-6166

編集委員：臼井道雄 酒井巧 杉浦次利 道休俊和 橋本侃 山田伊佐男